

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷三十三第

行發日一月二十年六和昭

論叢

家屋稅移管問題 法學博士 神戶 正雄
景氣變動と前進變動 文學博士 高田 保馬

時論

稅制整理を論ず 經濟學博士 沙見 三郎

研究

米穀の生産費に關する一考察 經濟學士 八木 芳之助

指數吟味の基準 經濟學士 蜷川 虎三

清算市場取引の二形式に就いて 經濟學士 今西 庄次郎

十九世紀末の國際農業恐慌 經濟學士 靜田 均

獨逸大銀行と中小工業金融 經濟學士 楠見 一正

說苑

再び育子教諭書について 經濟學博士 本庄 榮治郎

景氣變動の型より見たるドイツの失業 經濟學士 松岡 孝兒

中世の都市財政 經濟學士 大谷 政敬

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

本誌第三十三卷總目錄

(禁轉載)

景氣變動の型より見たる

ドイツの失業

松岡 孝 兒

資本主義はその發展の流れの摩擦に於いて、自ら沈澱を生ぜしめる。特にその沈澱は、その流速の低下するに従つて加速度的に増加する。失業は即ちその沈澱物中の一種である。

従つて失業は、資本主義社會に於ける景氣變動の認識目標として重要な存在を示す。たゞそこには、社會的大量現象としての把握に難點があつたため、景氣變動を捉へる徵候上の要素としては、事實、直接には用

ひられてゐなかつたが、その一度之を捉へ得る限りに於ては、常に一般物價水準特に卸賣物價指數に對して對蹠的關係を示すものとして考へられてゐる。かくて卸賣物價指數と失業率とのクロスは、一般に經濟界の恐慌關係を示すものであり、従つて景氣變動カルテに於ける缺形狀態¹⁾の出現は、資本主義社會の死線に直面せる凶相であるとされるに至つた。私は其の例として一九二〇年乃至二一年に亘り、イギリスを襲つた恐慌に於ける兩者の關係をあげるものであるが²⁾、だがそれは單にイギリスに於ける場合のみを語るものではない。ドイツ、フランス其他の歐洲諸國、北米合衆國、カナダ、濠洲等に於いても、同じ型が既に戰後幾度か繰返されてゐる³⁾。しかも最近我々は、更に新に同じ型の渦卷の中に卷込まれてゐる。蓋し、一九二九年末の米國に於けるブーム以來起りつゝある連續急激なる卸賣物價水準の下落は、深刻に世界各國に影響し來り、特に最近に於けるイギリス(第一表)及びドイツ(第二表)の状態は、正に其の經濟の行詰りを示しつゝある資本主

- 1) 此の點については高田博士；景氣徵候論について(經濟論叢第三十三卷第五號)參照。
- 2) Millar; Politicians, Financiers and Currency, 1931, pp. 46-47.
- 3) Wagemann; Struktur und Rhythmus der Weltwirtschaft, 1931, S. 294; International Labour Office; Unemployment (Some International Aspects, 1920-28), 1929. pp. 15-28; —, Unemployment Problems in 1931, pp. 108-109.

義組織の苦悶の象徴とも考へ得られるからである。だがこの苦悶は、更に同時に最近に於ける大量失業の堆積乃至この堆積内に醸成せる毒素による自家中毒によつて益々強められつゝある。この意味に於いて失業に關する分析及びその原因の認識と理解とは、ただにドイツに於いてのみでない、現代に於ける世界經濟は勿論、⁴⁾ひいてはその各聯鑲をなす各國民經濟、これらすべての景氣診斷上、見逃すことを得ない根本的問題であると私は考へる。⁵⁾

第一表 イギリスに於ける失業者數と卸賣物價指數⁶⁾

年	月	失業者數 (單位1000)	卸賣物價指數
一九二九年	九月	九三六	一三三
	十二月	一、〇七三	一三三
一九三〇年	三月	一、一六四	一三五
	六月	一、三三三	一三三
一九三一年	九月	一、五六〇	一三六
	十二月	一、八五四	一〇九
一九三一年	一月	二、〇四四	一〇七
	二月	二、〇九五	一〇六

景氣變動の型より見たるドイツの失業

第二表 ドイツに於ける失業者數と卸賣物價指數⁷⁾

年	月	登録失業者數 (單位1000)	卸賣物價指數
一九二九年	九月	一、三三四	一三六
	十二月	二、八五一	一三三
一九三〇年	三月	三、〇四一	一三六
	六月	三、六四二	一三五
一九三一年	九月	三、〇〇四	一三三
	十二月	四、六八四	一二八
一九三一年	一月	四、八八七	一二五
	二月	四、九七三	一二四
一九三一年	三月	四、七四四	一二四
	四月	四、三五六	一二四

一般に失業現象の發生は、勞働市場の存在に始まる。従つて資本主義經濟の成立以後に於いては、その機構の内的矛盾は、勞働市場に於ける勞働需給の不適合を通じて、必然的に失業を生ぜしめるに至つた。勿論農業又はその他の特殊産業に關しては、夫

4) Rees; Unemployment as an International Problem, 1926, pp. 9-20.
 5) Layton; Is Unemployment inevitable? 1925, pp. 82-86.; 拙譯; 景氣豫測法の研究, p. 179.
 6) S. D. N.; Annuaire Statistique, p. 56. p. 272; S. D. N.; Bulletin mensuel de Statistique, Mai, 1931, p. 201.
 7) S. D. N.; Annuaire Statistique, 1931, p. 56. p. 270.; S. D. N.; Bulletin mensuel de statistique, Mai, 1931, p. 202.

この例外はある。しかし一般的に云へば、労働市場の成立後は生産の期的變動は確かに失業者數に現はれて来る。然し其の量的考察は困難であり、又殊に最近の如く經濟機構上の變化に於ける必然的關係より生ずる大量失業の發生に於いては尙更である。唯此の間にあつて、失業保險の成立及び失業統計の發達のみは、この失業狀態を把握する上に確實なる資料を與へるものであると考へられる。

蓋し、前者即ち失業保險の成立後は、從來企業者がその不況時に於いて尙ほ死藏せる労働力を、何等の躊躇なく處分することが出来るからである。この點は確かに今日の資本主義社會の機構に於ける災惡を救済すべく案出されたものが、まさにその及ぼす災惡の程度を示すものであると謂ひ得る。この意味から云へば、表面的に失業保險が種々の道義的弊害を作り出すと見る考は、單なる技術上の問題にすぎないといひ得やう。⁸⁾次に失業統計の方面から見るときは、この點は更に著るしい。例へばドイツを見ると、戦前に於いて、一

般に取扱はれたものは、失業に關する労働組合統計⁹⁾及び労働市場に於ける労働供給量である。斯くの如き資料に於いても、もとより失業の相對的變動に對する概念を把握することは不可能ではない。だがそこには何等の絶對的價値が見出され得ない。然るに今日に於いては、失業保險は義務的に強行されてゐる。¹⁰⁾従つて失業統計はドイツに於ける失業大量をば全面的に把握し得る資料を供給し、失業狀態を確實に理解し得る材料を提供するものである。

然らばドイツに於いてかくの如くして發生し、かくの如くして明瞭となつた失業狀態は、世界大戰後如何なる狀態を示してゐるか？ 今一九二二年より最近一九三一年四月に亘る統計を示すと左表の通りである。¹¹⁾

第三表 ドイツに於ける失業狀態

年	月	労働組合加入労働者 完全失業者(%)	危機救済登録失業 受領者者 一部失業者(%)
		(單位 1000)	(單位 1000)

一九二二年六月 〇・六 〇・六

8) この點は農業殊に小賣店に多い。

9) 労働組合加入労働者は總數の20パーセントに過ぎない。
10) ドイツに於いて失業保險は、1913年已に社會民主黨によつて主張されたが採用されるに至らず、唯若干の都市のみが行つてゐた。大戰後再び問題となり、前後二回の否決を経て1927年漸く職業紹介所及失業保險法(Gesetz ueber Arbeitsvermittlung und Arbeitslosenversicherung)として實施されるに至つた。

11) S. D. N.; Annuaire Statistique, 1930, p. 46; —; op. cit. 1931, p. 56.

十二月	一九二三年六月	十二月	一九二四年六月	十二月	一九二五年六月	十二月	一九二六年六月	十二月	一九二七年六月	十二月	一九二八年六月	十二月	一九二九年六月	十二月	一九三〇年六月	十二月	一九三一年一月	二月	三月	四月
二・八	四・一	二八・二	一〇・四	八・一	三・五	一八・四	一八・一	一六・七	六・三	二・九	六・二	一六・七	八・五	二〇・一	一九・六	三二・七	三四・二	三四・五	三三・六	三二・八
八・七	一五・三	四三・〇	一九・四	六・五	五・二	一九・八	一八・一	七・三	二・七	三・一	五・九	七・五	六・七	八・五	一三・六	一六・九	一九・二	一九・五	一八・九	一八・一
			四六	五・六	一九・五	一、四九九	一、七四一	一、七四九	七五九	一、四〇〇	七二四	一、八三〇	九三〇	一、九八五	一、八三五	二、八三三	三、三六五	三、四九七	三、二四一	二、七九〇
													一、二六〇	二、八五二	二、六四一	四、八八七	四、九七二	四、七四五	四、三五八	

景氣變動の型より見たるドイツの失業

右表によつて見るときは失業率は次第に増加し來り

一九三〇年末よりは殊に其の程度が甚だしいことが容易に理解される。しかしかくの如き状態を示してゐる失業は、啻にドイツに於ける事情のみではなく實に最近に於ける世界各国の共通現象である。

第四表 國際失業査定表(單位百萬)¹²⁾

北米合衆國、ドイツ、イギリス、イタリア、ポロランド、オーストリア、ノルウェー、オーストラリア	一九二九年	一九三〇年
	六月	十二月
内譯	六月	十二月
北米合衆國 (1)	二・〇	三・〇
ドイツ (2)	一・三	二・九
イギリス (3)	一・三	二・六
失業者中位國	一・九	四・四
チエコ、スロヴァキア、ベルギー、デンマーク、スウェーデン、オランダ、エール、マニヤ、アイルランド、自由國、ハンガリー、ユーゴスラヴィア、アイス、カナダ	〇・三	〇・六
	〇・五	一・一

12) Wagemann; Struktur und Rhythmus der Weltwirtschaft, 1931, p. 305. 尙ほ表中 (1)は見積、(2)は労働局、(3)は失業保險によつて計上されたるものである。

三、失業度低位國

フランス、フィンラ ンド、ニュージーラ ンド、エストニア、 リトアニア	0.1	0.11	0.11	0.14
----------------------------------------------	-----	------	------	------

四、世界

七四	一一〇	一一五	一八・五
----	-----	-----	------

かくて最近の失業は最早單なる景氣の干満現象ではない。それは景氣の洪水現象としてのみ理解される。こゝに於いて失業の型への根本的反省が必要となる。私はこの意味に於いて以下レーデラーの失業の型及び失業の原因に關する研究を紹介せんとするものである。

今レーデラーによれば、彼は次の三種の型を擧げてゐる。一に期節的失業、二に循環的失業、三に經濟的機構による失業これである。¹³⁾私は、かくの如き失業の型に對する視角は、正に景氣變動論的視角以外の何ものでもないと考へる。然らばレーデラーはこれに對して如何なる内容を盛つてゐるか？ 私は以下景氣徵候論上の一要素としての失業の型について順次彼の考へを論じて見たい。

彼の謂ふところによれば、先づ第一に期節的失業は、

ドイツに於ける建築業並びに屋外勞働に於いて見るものである。それは天候期節等の影響によるものであり、従つてその曲線は夏期に最小、冬期に最大を示す。この點は特に戰後に於いて顯著となつたものではない。既に一九〇七年及び一九一三年に亘る期間に於いて、失業の谷は七月乃至九月の二%乃至一%に對し、その峯は十二月の三・二%を示して居つたのであつて、既にこの型の存在を示すものである。¹⁴⁾

第二の循環的失業に關しては、彼はこの種の失業を以つて景氣の循環的變動に關係するものであると見てゐる。換言すれば、景氣の上昇期に於いては鐵、石炭、その他の生産財に關する基礎産業の擴張は極度に達し、消費財に關するものは消極的となる。従つて一たび恐慌期にはいるときは、失業は當然生産財産業に著るしくなる。ドイツに於ける昨冬の失業増加は、斯くの如き立場より見るときに於いては、少くも第一の期節的失業に對して、第二の循環的失業が重なつた結果であるといふことができる。¹⁵⁾

13) Lederer; Le chômage en Allemagne (Revue d'économie politique, 45^e Année No. 2, pp. 278-279.)

14) Lederer; op. cit. p. 278.

15) Lederer; op. cit. p. 279.

然らば第三の經濟的機構による失業は如何？ 彼の云ふところに従ふと、生産過程に調和があり、且つ各種生産部門間に不一致がないにもかかはらず、あらゆる労働者が一の經濟に於いて飽和状態を呈して組織的失業が起ることがある。それは技術的進歩、領土の變化、年齢及び性による労働人口の成立に於ける變化が、その結果として組織的失業を將來するに至るからである。一般的に云へば、かくの如き失業は、從來の自由競争制度の下に於ては、長期的に解決するものである。即ち生産能力に對する事實の一致、または事實に對する生産能力の一致によつて解決するものであり、この限りに於いて、價格政策により修正されるが如き單純なる均衡變動の問題ではない。勿論また、收穫の豊凶、特殊生産部門の過剰生産による部分的不均衡の如き問題でもない。それは經濟機構全體に於ける根本的變化であり、生産及び分配過程の徹底的組織變更を必要とするものであつて、もはや單なる均衡の回復の如きものを意味するものではないのである¹⁶⁾。

景氣變動の型より見たるドイツの失業

要するに、かくの如き見方は、失業を以つて景氣變動論的に見たものであり、景氣徵候要素としての失業の意味を語るものである。更に立入つて考察を行ふときは、レーデラーの考へる失業現象の型に對する立場は、クルルノーに依る第二型に屬するものであり、¹⁷⁾即ち失業現象を期節的變動、循環的變動、長期的變動に分たんとするものである。故にレーデラーの考へはハヴァード又はアフタリオンのシステムに於けると同様、¹⁸⁾現象の分析については、嚴密科學的に偶然的不規則的變動、期節的變動、循環的變動、長期的變動の四種とせんとする考へに反對するものである。更にワージェマン的景氣變動の見方に従へば、第一及び第二は週期的循環的變動を示す *Periodische Bewegung* であり、第三は長期的變動たる *Trend* 即ち *Strukturveränderung* である。¹⁹⁾ ベヴァリッジの所謂「産業活動力の變動並びに産業組織の變革」²⁰⁾といふのも亦この意味を示すに外ならない。

三

第三十三卷 九二七 第六號 一四一

16) Lederer; op. cit, p. 278.

17) 拙稿；フランスに於ける景氣變動豫測論(經濟論叢第三十二卷第一號 p. 211)；
蜷川虎三譯；經濟循環期の統計的研究 pp. 141-143.

18) 拙譯；景氣豫測法の研究 pp. 316-320.

19) Wagemann; Konjunkturlehre, S. 45.

20) Beveridge; Unemployment, a Problem of Industry, 1912, p. 14.

レーダーラーは以上の如く失業現象を分析すると共に、更に最近のドイツに於ける失業原因の總括的敘述に移つてゐる。

凡そ失業の原因については従來種々に論ぜられてゐるが、併し私はこゝでは、これらの原因の二々に亘つて述べんとするものではなく、たゞ前述第三の經濟機構上の觀點より見たる失業の原因を述べるに止める。

蓋し今日のドイツに於ける失業問題の原因は、單に期節的又は循環的見方による限り、その決定的把握は到底困難である。そは世界大戰を契機として、世界經濟機構内に起れる重壓に基づくドイツ經濟機構内に於ける組織的變化によるものであると考へるからである。

この意味に於いて、ドイツ最近の失業の原因はこの視角に於いて吟味し、考察することが最も重大だと考へる。

然らばかくの如き立場から見て、レーダーラーは如何なる點を以つてその原因として擧げてゐるか？ 即ち如何なる原因を通じて戦後ドイツ經濟の機構はその失

業問題に對して暗影を投げかけてゐるか？ 私は以下この問題に逐次説明を加へやう。勿論これらの原因には、常に政治的原因が強く加味されて來ることも考へなければならぬ。しかし此の點もこゝでは預つておく。

一、勞働人口の數に於ける増加——此の現象は列國中特にドイツに於いて著るしい。今一九〇六年と一九二五年との間の勞働人口（十五歳より六十歳まで）をイギリス、フランス、ドイツの三國について見るときは、その絶對的人口に於いても、その増加率に於いても、ドイツは斷然他の二國を抜いてゐる。即ち左表の通りである。

第五表 英、佛、獨の勞働人口（單位百萬）²³⁾

國名	一九〇六年	一九二五年	増加百分率
イギリス	一九、五	二四、〇	二二
フランス	二三、五	二四、五	五
ドイツ	三二、五	四〇、五	二五

この勞働人口の増加内容に於ける特色は、戦後

21) Laverigne et Henry; Le chômage, causes, conséquences, remèdes, 1910, Chap. I; Crosson du Cormier; Les caisses syndicales de chômage en France et en Belgique, 1905, Chap. I.; Beveridge; Unemployment, a Problem of Industry, 1912, Chap. IV; Hobson; Economics of Unemployment, 1922, Chap. V.; Hook; Unemployment, its causes and cure, 1924; Pigou; Unemployment, 1913, Chap. VII.

22) Lederer; op. cit. p. 281-282.

23) Lederer; op. cit. p. 282.

中産階級のプロレタリア化、及び婦人労働者の壓倒的進出である。前者は所謂天文學的數字のインフレーションによる公債、貯蓄、預金等の價值の切下によるものであり、後者は結婚難、經濟的獨立による過剩婦人の労働者化によるものである。斯くて一九二五年に於いては、婦人労働者の數は男子労働者の數を越えること二百萬、殊にその差は二十五歳乃至四十五歳の者に於いて著るしく、男八百三十萬に對する女九百八十萬を示し、男に對し約百五十萬を超過して居る。この數は、労働人口總數に於ける女の男に對する差即ち前記二百萬人に就いて云へば、その約四分の三を占めるものである。

更に立入つて考察を加へて見ると、ドイツに於いては、合理化問題によつて労働者一般が、等しく失業問題に苦しんで居ると云つても、所謂労働者と使用人とに於いて、その状態を異にしてゐる。即ち所謂労働者に於いては、その數減少の傾向あるも、使用人に於ては増加の傾向がある。特に従來機械の力によること少

景氣變動の型より見たるドイツの失業

なかつた鑛山及び建築業等に於いては、合理化運動による結果の前者への影響強く、同じ意味に於いて設備の増加並びに改善に伴つて行はれる生産の専門化及び標準化は、一般生産の設備並びに生産過程への改善これが統制の進歩と共に使用人的労働需要の増加を生ぜしめることになり、特に商業方面に於けるこの種の増加は(百貨店及均一商店等)、没落中産階級の婦人労働者を要求するに至つてゐるのである。

二、労働人口の年齢に於ける變化——ドイツに於ける労働人口の増加は、已に述べたるが如くである。更に總人口に對して、労働年齢十五歳乃至六十歳の者が如何に變化したかを見ると、總人口については、一九一〇年に於ける五九百萬人は、一九二五年に於いて六百萬人に達して居り、更に労働人口(十五歳乃至六十歳)については、一九一〇年に於いて、總人口に對し五八・二パーセントなるとき、一九二五年に於いて六五・二パーセントであるから、その變化は七パーセント約四百萬人である。

第三十三卷 九二九 第六號 一四三

更に大戦後に於ける兵役義務廢止は労働人口を通じてドイツの經濟状態と密接なる關係を示してゐる。この兵役廢止によつて労働市場には入り込んだ人口は五十萬と謂はれる。之に對して支拂はれる失業手當は、極めて莫大なる金額であると考へられるけれども、更に一方から云へば、この五十萬の軍隊を維持するに必要な軍事費は一層大なるものであるといはれ、今日民兵に對して支拂はれる軍事費中の俵給及び恩給のみを以つてしても、已にこの失業手當の金額を超過するの事實を示してゐるものであると謂はれる。

かくの如く失業は、ドイツに於いては最も注目さるべきものである。蓋し労働力については、その資本との組合せが適當に行はれるものであると主張するものがあるけれども、實際に於いては、資本が摩擦なしに容易に使用さるべき労働力と一致し得るものではない。寧ろ反對に労働人口の急劇なる増加こそは、失業を將來するものである。労働力の供給が、直ちに吸收されるが如きことは經濟全體に於いても、また特殊部門内

に於いても、共に存在しないと考へられる。需要の増加が一定し且つそが資本及び企業の増加を決定するときに於いては、屢々需要の増加は其の弾力性を失ひ、その變化は極めて徐々にしか行はれるに過ぎなくなる。尤も個々の場合に於いては、一企業内の労働者數は豫め何等の變化なく増加することもあり得る。しかしかくの如き場合はむしろ極めて稀であつて、それ以外に於いては労働力供給の増加は、不均衡、特に失業を生ぜしめるものである。

三、資本の不足²⁴⁾——資本の労働吸收力については、已に述べたところである。經濟の發展が正常なる過程をとるときは、労働人口の増加に對しては、一般に貯蓄が吸收作用を營む。この生産資本は、生産財ひいては消費財の生産設備擴張に用ひられるものである。併しかくの如き資本の供給が困難となり、或は不可能となるときに於いては、遂にこれによつて労働者の吸收は不十分となり、失業は必然的に起らざるを得ざるに至る。

24) International Labour Office; Unemployment Problems in 1931. pp. 128-129.

此の視角に於いて、ドイツが先づ者へなければならぬことは、戦債賠償義務の放棄である。蓋しかくの如き債務の支拂は、蓄積さるべき利潤によるものである限りに於いて、その放棄を行はなければ、その利潤をばドイツに於ける生産設備に對して投ずることができないからである。少くもドイツに於いて、戦債賠償の義務ある限り、利潤は蓄積されず、これによる新たな投資も行はれず、従つて勞働者も吸収することができないと謂へる。²⁵⁾

四、技術的進歩——一九二五年以來、大工業の技術は、合理化の影響を受けて本質的な變化が齎らされた。それはアメリカ工業との競争に於いて助成されたものであり、縦及び横の關係に於ける分業による組織の改善、生産技術の根本的變化等、あらゆる部門に於いて徹底的な影響を示してゐる。特に鑛業、建築業、化學工業、重工業、機械工業、並びに纖維工業に於いて著るしく、それは必然的に失業を惹起した。しかも統計によれば、採炭、採鑛、化學工業、建築工業の如き最も

景氣變動の型より見たるドイツの失業

重要な産業に於いては、近年はその勞働者數の増加を示してゐない。従つて過剩勞働者は、新産業部門、商業部門、又は官公廳に向つて流れざるを得ないが、これもその吸収力は著るしいものではない。經濟的見地から見て技術的進歩が希望さるべきものなりや否やの問題は、實に這般の合理化運動の結果示されてゐる。今日では如何なるものと雖も、最近に於けるこの急激な合理化作用が、失業者の數を著増せしめたことを疑ふものはない。そしてその失業者に對しては、商業部門のみが僅かにその吸収力を示してゐる。このことは如何に資本主義組織に於ける資本構成の高次なる工業が、根本的に疲弊してゐるかを示す事實上の根據である。がそれはまた同時に、資本構成の比較的低次なる商業が、その表面上に於ける小額資本のために如何に相對的に有利なる地位にあるかを示すものである。要するに技術的進歩の急激なるリズムは、著るしく今日の失業を支配してゐる。²⁶⁾ドイツ工業はこの影響から免れることができない。蓋しアメリカとの競争は、

第三十三卷 九三一 第六號 一四五

25) Lederer; op. cit. pp. 285-286.

26) International Labour Office; Unemployment Problems in 1931, p. 45.

ドイツをして一途に急速なる合理化の途を辿らしめるからである。さればと云つてまた他方、英國の事情を見ても、舊式なる生産様式によつても失業は到底避けられない。況んや、より、有力なる競争者が市場の開拓に努め、且又高き生産費による生産物の販賣を妨げるに於いて尙更である。こゝに於いて、世界に於ける生産力發展への社會的統制のみが、僅かに經濟の動搖を防ぐものなることを信ぜざるを得ざるデレンマに陥る。²⁷⁾

四

かくの如きものは即ちレーデラーの組織的失業を支配する要素である。失業原因中かくの如きものは、已に述べたるが如く、景氣變動論的視角からすれば、單なる期節的變動又は循環的變動の原因として存立させることは明かであつて、それは長期的變動換言すれば經濟の有機的組織の變化即ち所謂トレンドの構成要素を示すものである。

景氣變動論の見方からすれば、經濟現象の時系列的

把握に於いて中心となるものは、無論循環的變動であらう。然し今日の如く經濟現象が最も強く政治的色彩を帯び、しかも一般にトレンドの變化が循環的變動と共に存在して居るが如き場合に於いては、トレンドの認識把握は益々重要となるに至る。このことは素より注目すべきことである。然しこれと共に注目すべきことは、かくの如き景氣徵候の研究と共になすべき資本主義社會の發展に關する研究である。我々は資本主義の Captain of Industry は、其の好景氣に對する攻撃戰に於いては極めて強力であるが、其の不景氣に對する退却戰に於いては薄弱であるといふことを知るがゆゑに、今次の對不況大退却戰に於いても、果して産業豫備軍の所置に於いて妥當を得、再び捲土重來の勢力をつくり得るや否やについては深き關心を拂はんとするものである。(一九三一、一一、四)

27) Lederer; op. cit. pp. 284-285.